

課題	実施時期	実施場所	対象	協力	経過及び成果	問題点及び今後の課題
<p>2. 交流学習事業 シンポジウム (水産業と 観光漁業について)</p>					<p>本県の水産業は、各種の条件整備が進み、バヤオ漁業、ソデイカ漁業の進展、もすく養殖業及び栽培漁業の展開等明るい展望がみられるものの、水産資源の減少、後継者難など多くの問題が横たわっている。現在、本県の水産物をめぐる状況は、輸入水産物の増大や魚価の低迷、理立や乱開発などによる赤土の流出などの漁場環境破壊、漁業資源の減少、そして後継者難など多くの問題が横たわっている。一方、社会情勢の変化に伴い、沿岸域における海洋性レクリエーションの需要が増大したこととで、同一の海域において水産動植物を釣り等により採捕する遊漁者と沿岸漁業とのトラブルの発生、さらには遊漁者のみならず、モーターボート、スキューバダイビング等の海洋性レクリエーションが盛んになる一方、漁業とのトラブル等、沿岸における漁業生産活動に少なからず影響を与えている状況であると言えます。こうした情勢にかんがみ、「水産業と観光漁業について」どう対応していくか等、地域の実情に即した漁業と遊漁、海洋性レクリエーションと円滑な海面漁場利用関係を築くために、水産業と観光事業をどう調整、解決し活かすかについて、それぞれのパネリストの立場で、意見を述べたことともに、プロアリーの皆さんと意見交換しあい、21世紀に向けて魅力ある沿岸漁業の確立を図りたい。</p> <p>1. コーディネーター 糸満 盛健 (沖縄県漁業信用基金協合理事長)</p> <p>2. パネリスト 伊野波盛仁 (沖縄県漁業協同組合連合会専務理事) 比嘉 康雅 (沖縄県漁協青年部連絡協議会委員長) 西銘 仁正 (伊平屋村漁業協同組合代表理事組長) 伊良波淳世 (沖縄県指導漁業士) 比嘉 義規 (恩納村漁業協同組合指導係)</p>	
<p>3. 技術交流 (かつお餌料採捕の省力化 された棒受網研修)</p>	<p>平成11年 3月下旬</p>	<p>鹿児島県 牛根漁協</p>	<p>本部のかつお 一本釣漁業</p>	<p>鹿牛本 鹿児部 島漁協</p>	<p>経 過 本部のかつお一本釣漁業は49トン型と12トン型2隻が操業している。経営内容は、49トン型は釣り手として就業する者と、餌料を採捕に就業する分業体制である。両方の構成は30～32名である。それぞれに従事する者は約半々である。また、12トン型の乗組員は6～7名で餌料採捕と釣り手が兼業しているため、労働過重を強いられている状況である。このため、少人数での可能な漁法を導入し、経営改善を図るため、鹿児島県での棒受網や小型まき網漁業の研修を実施する。</p> <p>成 果 鹿児島県では、棒受網は4月上旬から操業が始まり、小型まき網は3月中旬から操業が始まることから、鹿児島の普及事務所と日程調整中である。</p>	<p>水光を使用したかつお餌料採捕漁業はやみ夜での操業である。鹿児島県では、棒受網は4月から始まり、本部のかつお漁業の操業は4月上旬から始まるので、研修接点調整が難しい。</p>

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力	経 過 及 び 成 果	問 題 点 及 び 今 後 の 課 題
シラヒゲウニの資源管理について	平成11年 3月12日	今 帰 仁 村	宜野座村 漁業協同組合 漁業者	今帰仁村漁 協ウニ部会	シラヒゲウニの資源減少の著しい宜野座村漁協に対し今帰仁村ウニ部会を主催した。宜野座村漁協パヤオ部会が沖繩市漁業講習会を開催した。今帰仁村漁協ウニ部会の活動状況、出荷調整方法、ウニ一次加工法等を学習した。	当学習会に於いて今帰仁村漁協ウニ部会の取り組みを参考にしてもいい、宜野座漁協のウニ漁業に於いても漁獲物の一次加工の促進、禁漁期の設定、また、漁協間の枠を越えた出荷調整ができないものか検討していただきたい。
パヤオ技術交流会	平成11年 3月	沖 繩 市	宜野座村 漁業協同組合 漁業者	沖 繩 市 漁 協 パヤオ部会	パヤオ漁業に従事する漁業者間の情報交換会及び交流会を11年3月に行う予定である。宜野座村漁協パヤオ部会が沖繩市漁協パヤオ部会を訪問し漁業技術また漁況等についての意見交換を行う予定である。 3月19日、普及所金城専技が沖繩市漁協の要請により漁業技術講習会（まぐろの旗流し）を行うこととなり、当会に宜野座漁協パヤオ部会も同席し交流会を行う予定である。	
技術交流育成定着事業 新技術定着試験 生簀無しによる魚類養殖試験	周年	糸 満 市	漁協養殖 グループ	糸 満 市 協 糸 満 漁 協	糸満漁港北西沖合約1km水深10m付近に設置予定、生け簀規模は6m×6m×6m規格、網目は20mm（別紙見取り図参照）、基礎工事（海底アンカーの固定ロープ）が未着手なため飼育試験できず現在市役所漁協サイドで施工業者と調整中。試験工事が完了次第クワカロンバチ・マダイを収容して飼育試験開始予定。	

課題	実施時期	実施場所	対象	協力	経過及び成果	問題点及び今後の課題
技術改良試験 ヒジキの増養殖試験	平成10年 4月	与那原・西原	漁協婦人部	市漁協	<p>経過</p> <p>昨年度の結果(報告書は、水産庁提出済み)を踏まえて、本年度は西原町沿岸に敷き設けられている「人工衝波堤」下流に設置。4月9日ヒジキ増殖漁場調査、漁協の要望もあり本年度は西原町の石油コンビナートに隣接する海岸で、平板状の人工衝波堤を利用して、ヒジキ卵の散布状況とコンクリート面における「胚の生育状況」観察のためポリザル設置場所の調査を行った。4月15日、16日ヒジキ増殖用ポリザル設置作業の実施。そのポリザルは、人工衝波堤下部を中心に6個設置した。内生育観察のため衝波堤上部に4個設置した。卵の成熟度は、3月30日で昨年5月の成熟度に達したため一ヶ月繰り上げてポリザルを設置した。(生育器からの卵放出が著しい)同日の水温が23.8℃と昨年度の同じ時期(19.5℃)に比べ3℃~4℃高めであった。(生育器からの卵放出が著しい)藻体の流失や収穫(2月13日)終了(4月15日)とも昨年と比較べ一月早い。生産量は昨年より10トン減の47トン。</p> <p>中間結果【継続中】</p> <p>8月21日、4カ月経過したポリザル周辺の胚の散布及び生育状況調査を実施した。結果、ポリザル及び衝波堤周辺一帯はフジツボの異常発生(堤面上に密生)により、胚の確認ができないう状況であった。急遽下記タンク内卵採種コレクターに切り替えた。</p> <p>11月15日栽培センターのタンク内で卵採種(5月採種)した4インチプロックのコレクターを西原と与那原に各2個設置した。1月31日、与那原に設置したコレクターについて調査した結果天然自生体の、生育の良い所で3cm~10cmで全体的には1cm~3cm程度であった。昨年の同時期の50cm~70cmに比べ、今期は生育が非常に遅い。一方、コレクター採種発芽体も1cm~3cmと生育は遅いが全面密生している。</p> <p>今期の収穫は、生育が非常に遅いことから昨年(2月13日)に比べ1ヶ月遅れそう。</p>	引き続きポリザル設置を継続しながら、下記手法について検討したい。 ○陸上タンクによる卵採種 栽培センター内のファイバー製のタンク内にプロックを敷き積みその上面にヒジキ成熟藻体を株毎放し受精卵の落下着床による採種方法を今後も継続実施し、増殖手法の適否を検討したい。

課題	実施時期	実施場所	対象	協力	経過及び成果	問題点及び今後の課題
<p>担い手確保総合対策推進事業 県推進会議 (委員14名) (県 4課)</p>	<p>3月23日</p>	<p>普及所会議室</p>	<p>推進委員</p>	<p>推進委員</p>	<p>平成11年3月23日、午後2時より開催のため各委員及び関係機関に通知 議題 1. 平成10年度漁業生産の担い手確保、育成事業実績報告について 2. 平成11年度漁業生産の担い手確保、育成事業計画について 3. 平成10年度漁業士活動状況及び11年度計画について 4. 平成11年度県青壮年、女性漁業者交歓大会及び全体討議の検討について 5. 重点課題 (平成10～12年度) の検討</p>	
<p>地区推進会議 (本島10人、宮古5人、 八重山6人)</p>	<p>2月10日</p>	<p>普及所会議室</p>	<p>推進委員</p>	<p>推進委員</p>	<p>推進委員10名の内、8名出席、4議題を審議した。委員から4点の意見・質問事項があった。 内容 1. 北海道ではウニ養殖が盛んに行われているが、漁村高齢者事業でシラヒゲウニの短期突入り試験を10年度で実施しているが、本県沿岸の藻場資源はどうなっているのか。 2. 平成11年度に陸上タンクによるトコブシ養殖試験を港川漁協で計画しているが、室内で養殖可能なのか。室内のはどうなっているのか。 3. 少年水産教室で小中学生を対象に体験学習を開催しているが、指定されない地域から参加できるのか。 4. 全国専門技術員研修の講演で、獲る漁業から売る漁業へとあるが内容を教えてもらいたい。 この質問は沖繩水産萬校の平良先生からでした。後日、資料を提供した。先生から教材にして活用したいとのことのお礼の連絡があった。</p>	

課 題	実施時期	実施場所	対象	協力	経過及び成果	問題点及び今後の課題																
漁業士養成・認定事業 漁業士認定	4月～3月	県一円	漁業者	市漁協 村協	青年漁業士 平成10年度は推薦がなく、青年漁業士の認定者なし。 指導漁業士 平成10年度認定指導漁業士	最近は青年漁業士候補者の推薦が無い、若い者の漁業への参入者が少なくあつたとしても漁業士への推薦を辞退したりする。																
漁業士研修 漁業士九州ブロック研修	11月5日～6日	宮崎県	漁業士	水産庁 各産	<table border="1"> <thead> <tr> <th>氏名</th> <th>年齢</th> <th>所属漁協</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>比嘉行三</td> <td>43才</td> <td>国頭漁協</td> <td>青年漁業士</td> </tr> <tr> <td>上原清秀</td> <td>45才</td> <td>港川漁協</td> <td>新</td> </tr> <tr> <td>砂川有造</td> <td>45才</td> <td>平良市漁協</td> <td>新</td> </tr> </tbody> </table> <p>各認定者の実績人柄については平成10年度発刊第42号の水産普及だよりを参照してください。</p> <p>九州各県から漁業士が参加。各県漁業士活動状況と予算報告、パネルディスカッションは各県からパネラーが漁業士1名代表として出席。地域における水産物流通、価格問題改善の取り組みをテーマとして論議がかわされた。</p> <p>「海の芸能」と題して、講演も実施された。</p>	氏名	年齢	所属漁協	備考	比嘉行三	43才	国頭漁協	青年漁業士	上原清秀	45才	港川漁協	新	砂川有造	45才	平良市漁協	新	
氏名	年齢	所属漁協	備考																			
比嘉行三	43才	国頭漁協	青年漁業士																			
上原清秀	45才	港川漁協	新																			
砂川有造	45才	平良市漁協	新																			
漁業士活動促進事業 地域漁業等交流会 (北部一八重山)	11年 2月23日～24日	石垣市	北部漁業士会	八重山漁業士会	北部漁業士会が八重山漁業士会を訪問、地域漁業交流会を開催した。11年2月23日から24日まで開催予定。大型バヤオライム水産八重山支場、日本栽培漁業協会、また八重山地区漁業士池田氏のヒレシヤケジを視察した。池田氏は約5万個のヒレシヤケジをケージ養殖しており事業は順調である。	現在、池田氏が行っているヒレシヤケコケの養殖は好成绩をおさめているようであり、今回の視察で、状況等詳しくお伺いし、北部地区でも導入に向け試験養殖また、技術普及を行う予定である。																
普及職員研修	10月15日～16日	神奈川県 (中央水研)	普及職員	水産庁	参加者は2名、初日は講師4名による講演会、終了後懇親会。2日目は水産庁から予算関連の説明があり、午後から3分科会(資源管理と普及員)に分かれ討議を行う。その後、全体討議のあと研修会を終了した。																	
平成10年度 水産業改良普及職員九州ブロック研修会	9月7日～9日	熊本県水俣市	普及職員	九州各産	開座県挨拶(熊本県中村水産振興課長)来賓挨拶(水産庁松本課長補佐)があり、「これからの日本漁業と水産業改良普及事業の役割」と題して鹿原島大学水産学部長教授による講演、「水産物の安全性とHACCP」と題して水産庁研究指導課長島室長による講演、松本課長補佐からH11年度概算要求説明、最後に各県、普及事例報告があり普及職員協議会は閉会、午後7時から懇親会へ移行した。																	

課題	実施時期	実施場所	対象	協力	経過及び成果	問題点及び今後の課題
普及職員連絡協議会の開催	平成10年 年3回	普及所、その他	普及職員		第1回 5月20日～21日 H10年度重点普及課題計画の検討 他5議題 第2回 5月24日～25日 H11年度漁業生産担い手育成事業計画 他4議題 第3回 3月15日～16日 H11年度普及事業予算について 他4議題	
普及職員の研修	平成10年 6月	静岡県	全国専門技術員	水産庁資源課	研修日程 自 平成10年6月16日 至 平成10年6月18日 講演 (1) 資源増殖と浜の役割について (社) 日本栽培漁業協会 松岡タイラ 常務理事 (2) 沿岸漁業の担い手確保対策 水産庁資源生産推進部 松本寛二 課長補佐 (3) 漁業における資源の効率的利用について (獲る漁業から売る漁業へ) 水産庁資源管理部 坂本幸彦 課長補佐 (4) 栽培漁業について 水産庁資源生産推進部栽培増殖課 課長補佐 坂本 猛	
生産者会議 ※モズク協主催・合同研修会	2月19日	白雲荘	新規・中途参入	モズク協 事務局	5) 本張り (時期・藻体大きさ・網の高さ・網ならし等) 6) 管理 (日照対策・芽落ち対策・漁場移動・赤(土)水対策) 7) 収穫 (雑藻処理・ヨコエビ除去・時期・大きさ・収穫機等)	
※シート採苗及び養殖管理に ついての学習会	8月11日 8月24日 9月11日 9月17日 12月15日 12月17日	今八本伊宜金 婦重部江野武 協漁協協協協 漁漁漁漁漁	生産部会 生産部会 生産部会 生産部会 生産部会	協漁協協協協 支漁漁漁漁漁	【経験教年及び希望部会対象の学習内容】 1) 採苗水温と芽落ちの関係 (事例等紹介・意見交換) 2) 種苗の漁場での取り扱い (雑藻・泥・ヨコエビ対策・前処理) 3) 収穫時期 (成熟時期・成熟モズクの判断・色・つや・大きさ) 4) シート採苗及び浮き流し養殖方法 (生育不良対策) 5) シート採苗方法 (主に北部地区について実施) 6) 藻体採苗の実施時期・月例との関係等 7) 品質管理のあり方	OHPを使用し、概略説明後、 生産者の体験等交えて意見交換形 式で、学習会を行った。養殖の基 本を確認しつつ生産者独自の体験 を引き出す発言方法で行った。
※モズク養殖生産技術交流会 (主催：原モズク協議会)	7月31日	水産会館	地区生産者	モズク協事務局	【技術交流会内容】 ・座長……………松本 猛 1) 平成10年度漁期生産状況報告……………事務局 2) 代表者による現地報告……………各地区代表者 3) モズク養殖日誌の活用……………渡名喜盛二指導漁業士	* 沖繩県モズク養殖業振興協議会 通常総会後に開催。

課題	実施時期	実施場所	対象	協力	経過及び成果	問題点及び今後の課題
※モズク養殖生産技術交流会 (主催：県モズク協議会)	7月31日	水産会館	地区生産者	モズク協事務局	4) 事例報告 ア、半浮動浮き流し養殖を試みて、池田元指導漁業士 イ、鉄筋クイを利用した半浮動浮き流し養殖 ウ、大城兼一(八重山漁協)出席できず、駐在が報告 エ) 全体討議(質疑応答、意見交換) 5) 閉会 6) 閉会	* 同交流会は、生産者会議に変わる会議であるが、出席者が限られている(代表者)ため多くの漁家が出席できない状況である。今後持ち方等検討する必要がある。
※モズク養殖生産部会代表者会議(主催：モズク協議会)	12月8日	水産会館	生産者代表	モズク協事務局	【代表者会議内容】 ・進行 1) 平成10年度モズクの取り扱いについて、事務局長 2) 今期モズクのシート、培地採苗網の育成状況 3) MDS水温測定結果による生育との関係、駐在 4) 海外モズクの情報について 5) 総括質疑(全体討議) 水産振興課 玉那覇 靖 事務局長	* 生産者代表による報告は、時間の関係で、全体討議の中で、行った。次回に持ち方等検討
※モズク養殖臨時生産者会議(主催：モズク協議会)	1月20日	水産会館	生産者代表	モズク協事務局	【臨時生産者会議内容】 ・進行 1) 平成11年度モズクの取り扱いについて、事務局長 (漁協別目標生産量の割当) 事務局長 2) 特定水産物調整事業の資金造成目標の設定について 《情報提供》 振興基金 知念事務局長 1) 海外モズクの情報、水産振興課 玉那覇 靖 2) 赤土条例施行後の赤土汚染の現状と今後の課題 ・県衛生研究所 赤土研究室室長 大見謝辰男 3) 今期産モズクの成育状況と不良対策、駐在 4) 質疑応答、閉会	* 平成10年度第1回臨時総会
※魚類養殖生産者会議	4月8日	名護市	養殖グループ その他	水産振興漁業協 地名羽	① 県内魚類養殖の概況説明(普及所) ② クロカンバ子及びトコブシ種苗の配布状況 (県漁連泊事業遠隔購買課) ③ 築地魚市場での養殖魚流通について(大都魚類鮮魚課長) 以上の話題提供を報告後、疑問点に対する質疑応答に移り、 pm4:00に閉会した。	

平成10年度担当地区別普及事業報告書

担当地区：平良市・城辺町・伊良部町・下地町・上野村・多良間村 担当者：南洋一・中田祐二

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力	経 過 及 び 成 果	問 題 点 及 び 今 後 の 課 題
少年水産教室 ヒメシヤコガイの放流体験 学習	平成10年 7月10日	多良間村公民館 長マシ地先	多良間村中 学 校2・3年生	沖縄県水産試 験場八重山支 場	シヤコガイの生態等の講義、ヒメシヤココの放流体験を行った。	実施後は放流固体の観察を理科の 授業で行っている。次年度以降も 同様の水産教室を村単独で継続し ていきたい。
漁村女性活動支援事業 サメ加工品開発	周年	平良市漁協 モズク2地加工所	平良市漁協婦 人部	宮古支庁農業 改良普及セン ター 武島指導漁業 士	漁村女性活動支援事業推進協議会を作り、第1回会合を開く。 沖縄県蒲鉾水産加工業共同組合参事、上原氏を招き講義を行う。 加工品はサメの佃煮、南蛮漬けフライを作った。	講師の話ではサメは臭いの処理が 難しいとのこと。 加工品ではサメの佃煮が好評であ ったが、翌日になると味が落ちる とのこととで、産業界りに向け改良 が必要。
営漁簿作成	平成11年 3月26日	平良市漁協 2階会議室	平良市漁協婦 人部	宮古支庁農業 改良普及セン ター 沖縄県水産業 中央会	沖縄県水産業中央会の前泊森氏を招き営漁簿作成の講義を行う。 またコンピュータを使用した営漁簿記入を目的とし、コンピユ ーター講習会も開催した。	営漁簿の作成では、日頃財務関係 の事務を行ったいる漁協職員も参 加した。婦人部は減価償却の少 話となることと急に理解できな い人も多かった。漁協職員など も早く、今後一緒に習っていき たいとのこと。支庁の普及員が 継続して行く。
都市漁村交流会		西原地区公民館	平良市漁協婦 人部 平良市商工 会 議所	宮古支庁農業 改良普及セン ター 県 漁 連	平良市商工会議所婦人会が、平良市漁協婦人部と、モズクの加 工品の普及で交流会を行った。講師には県漁連の又吉かおり氏 を招いた。	モズクが新鮮すぎると磯の香りが 強くモズクの炊き込みご飯には向 かない。
青年女性漁業者交換大会	平成11年 1月15日	那覇市水産会館	伊良部恵行	伊良部町漁協	中層魚礁設置に関わる、伊良部町漁協小型船主会の取り組みに ついて発表を行った。 伊良部町漁協の青年部・婦人部も応援に駆けつけた。	今回設置した中層浮魚礁は、まだ 成果が上がっていない。今後は朝 集効果や、中層浮魚礁の船作りに研 究を変えていき、結果が出たのち 発表したい。

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力	経 過 及 び 成 果	問 題 点 及 び 今 後 の 課 題
グループ活動 魚類養殖視察	平成10年 7月28日 ～30日	熊本県天草	博愛漁業生産 グループ	天草水産指導 所	博愛漁業生産グループをつつれて熊本県天草の松島町魚類養殖場と松島町漁協の荷捌施設を視察した。	上野村には魚類養殖場の漁業権がない。5年後の漁業権切り替えに向けて小規模な実験をやっていく必要がある。
陸上養殖施設視察	平成10年 3月	運天原水産試験 場 沖繩県栽培漁業 センター	平良市漁協青 年部城辺支部	羽 地 漁 協	海ブドウ陸上養殖施設を作ることとを目的として視察を行った。また、そういった陸上施設での、他の水産物の養殖の可能性について視察した。魚類養殖について運天原で学び、水産試験場で他の魚種について検討した。	基本的に魚類を養殖するには運天原のような広い静水域が必要で、難しいとこのことを理解する。水産試験場で実験している、トコブシとシラヒゲワニについて今後導入できないか検討していく。
平良市漁協ソデイカ部会設 立	平成11年 2月	平良市漁協2階会 議室	平良市漁協組 合員		平良市漁協にソデイカ部会を設立。 活動内容は、 1.ソデイカ資源管理に関すること 2.漁協との買取り価格の交渉 3.その他、ソデイカ漁獲に関すること と決定した。	平成11年3月27日に行われた、技術交流会で八重山漁協のソデイカ資源管理委員会と技術交流を行った。その結果、宮古地域も資源管理組織をしっかりとさせ八重山漁協と連携していくことが確認された。
漁業士会活動 支部活動	周年	宮古地区	沖繩県漁業士 会宮古支部		8月12日に支部総会を開催し病気療養中の支部長の職務代行、タマンの産卵場所調査等が採択される。 沖繩本島で行われた漁業士会の総会に2名参加。	最近支部としての活動が停滞気味であるが、漁業士の講師としての活躍の場等もあるので、そういった活動をしていきたい。
漁業士活用事業モズクの種 越冬保存	平成10年 8月19日 ～20日	本部町	儀保 正司 武島 秀忠	本 部 町 漁 協	宮古地区から新たに砂川有造氏が指導漁業士になる。 婦人部が行っているサメの加工品開発で、サメ解体の講師として武島漁業士が参加。	平良市漁協と協議し早急に対処し、施設の検討をする。今後漁協の施設に簡易な保存施設を作り、漁協職員や漁業士と協力して種越冬保存を行っていく。
宮古地区若い漁業者確保推 進会議	平成11年 3月19日 (予定)	平良市漁協	各委員		本年度の若い漁業者確保推進会議を行う。	来年度の事業として、宮古地区の新規就業者の実態調査を行う予定である。

平成10年度 八重山地区普及事業報告書

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力	経 過 及 び 成 果	問 題 点 及 び 今 後 の 課 題
交流学習事業 「観光漁業への取り組みについて」	平成11年 2月6日	八重山漁協	八重山漁協 青年部・婦人部	八重山漁協	近年、近海の水産資源の減少が大きな問題になっている。今後も漁業を続けていくためには漁船漁業以外の漁業への取り組みも必要がある。そこで伊平屋村の「海の学校」校長の今井氏を招いて観光漁業への取り組みについて学習会を行った。	数グループの漁業者が積極的に取り組もうとしていて、11年度で「海の学校」の視察を行い、受け入れ準備委員会を組織し、参加漁業者及び漁業種類について調査していく必要がある。
「赤土対策について」	平成11年 2月17日	八重山漁協	八重山漁協 青年部・市民有志	八重山垣 石	八重山地区では土地改良区などからの赤土流出がサンゴ礁などの海洋環境に大きな被害を与えている。環境汚染が水産資源に与える被害も大きく、青年部を中心に赤土対策に取り組んでいくために沖縄本島で赤土対策に取り組んでいる沖縄市漁協の助氏を招いて学習会を行った。	漁協青年部とダイビング業者が協力して赤土流出を防ぐための組織が作られた。今後このような民間の組織と役所が共同で取り組んで赤土流出を防いでいきたい。
はつらつライフ事業	平成10年 7月～ 平成11年 2月	与那国町漁協 久部長公民館	与那国町漁協 婦人部	与那国町 与那国町漁協 農業改良普及 センター	与那国町漁協では島の周辺に一本釣、ひき網の好漁場に恵まれているが、流通面が隘路となって生産量大のネットクになっっている。そこで、漁協婦人部を中心として生活改善普及委員の指導を得ながらカジンキ味噌、カジンキ佃煮等の開発に取り組んできた。	
少年水産教室 「建干網体験」	平成10年 4月28日	名蔵湾	石垣市立川原 小学校 児童29名	漁業者グループ	建干網内の魚のつかみ取り等の体験を通して、漁業・水産資源・環境保全に対する理解を深めることができた。	
新技術定着試験 「ヤイトハタの養殖試験」	平成10年 7月28日 ～	石垣市		八重山漁協 魚類養殖研究会	ヤイトハタは平成9年度より水試八重山支店で大量生産が可能になった。今回の試験ではシエルターの有無による成長の比較を目的とした。今月の区無し区にそれぞれ1,500尾ずつ入れ、1ヶ月おきに全長と体重を測定した。最終的に、シエルターの有無による顕著な成長、生存率の差は見られなかった。	今回の試験では養殖初期にシエルター有り区の方で網目からヤイトハタが逃げ出したらしく、生存率についてには正確な実験ができなかった。